

## 編集後記

昨年3月11日の東日本大震災のときはブータンで現地調査に従事しており、現地のテレビで、津波と原発事故による「日本崩壊」の映像を繰り返し見た。それから1年余が経過したが、多文化共生研究所として、この1年、「災害」と「持続性」を最重要テーマとして様々な活動に取り組んできた。今号では、その成果を特集「環境・災害と向き合う地域づくり」として掲載した。また、巻頭に、「災害人類学」の第一人者である清水展氏（京都大学教授・東南アジア研究所所長）の論文を掲載させていただいた。この論文には、広い視野と長いスパンから見た、災害と人間社会の関係性や、我々の取るべき行動などについての多くの示唆が込められている。特集記事と併せて、これからの復興のあり方、社会のあり方、私たちの生き方などについて考えるうえでの参考になればと思う。

2011年度はまた、GISPRI（地球産業文化研究所）の助成と学内の理事長特別研究費を得て、環境共生をテーマとし、災害も組み込んだ、「森と草原の地球教室：自然と文化の大交流」をはじめとする様々な実践的イベントを開催した。それらの実施にあたっては、亀井伸孝、渡会環、王曉葵をはじめとする研究員のみなさん、日丸美彦（社会人）、ソロンガをはじめとする大学院生・学生諸君に活躍していただいた。また、総合地球環境学研究所他の機関、NPO団体、多くの方々のご協力を得た。今号ではその活動記録も特集「森と草原の地球教室」として掲載した。

特集以外の論文・研究エッセイ・フィールドノート等も、優れた論稿を寄稿していただいた。執筆者のみなさんには刊行が当初予定より遅れたことをお詫び申し上げたい。前号は、年度末の編集作業をブータンに持ち込んでしまい、その反省から今号はもっと早く準備を進めるつもりだった。が、結局、諸般の事情で遅れてしまった。3月には、総合地球環境学研究所、京都大学等の医学調査チーム（筋萎縮症などの研究）と共同して、インドネシアのパプア州（ニューギニア島）で文化人類学調査に携わったが、やはり最後の編集作業を現地に持ち込むことになってしまった。

今号の編集にあたっては、新しく研究所事務を担当することになった桑原光さんの貢献が大きかった。CMCの高木貞二氏、伴野虎男氏にもたいへんお手数をおかけした。

稲村哲也（インドネシア、パプア州にて）

---

共生の文化研究 6 Journal of Cultural Symbiosis Research No.6

特集1：環境・災害と向き合う地域づくり

特集2：森と草原の地球教室

---

2012年3月31日発行

編集・発行 愛知県立大学 多文化共生研究所

住所 〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522 番 3

代表 稲村哲也 (INAMURA Tetsuya)

E-mail: [inamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:inamura@for.aichi-pu.ac.jp)

印刷 株式会社シイエム・シイ

---

Published: March 31, 2012

Published by: Aichi Prefectural University, CSRI (Cultural Symbiosis Research Institute)

1522-3 Ibaragabasama, Nagakute-shi, Aichi, 480-1198, JAPAN

Director of CSRI: Tetsuya Inamura ([inamura@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:inamura@for.aichi-pu.ac.jp))

©Aichi Prefectural University, CSRI

Printed by: CMC CORPORATION

---